



## 「戦略とスピード」をキーワードに、 お客様満足度の向上とユビキタスネット社会を推進

1

### 最近の業界動向

#### 進む通信業界の競争

**Q** 最近の業界動向をどのようにご覧になっていますか。

**A** 電気通信業界は、携帯電話への新規参入や「モバイルナンバーポータビリティ(MNP)」の導入を控え、新たな競争局面を迎えています。当社としては競争そのものは歓迎しますが、通信は重要な社会的インフラであるため、お客様に対して安定的な通信環境をご提供し、その上で各社がサービス・商品提供において競い合うことでお客様にメリットを還元できる健全な競争が進展することを期待しています。

MNPの導入により一層の競争激化が予想されますが、当社はこの変化をチャンスとしてとらえています。端末、サービス、料金をハーモナイズさせることによりお客様満足度を高め、総合力で競合他社に対抗していく所存です。

2

### 上半期の業績

#### 順調なauと将来の布石を打った固定通信

**Q** 上半期の業績をどう評価されますか。

**A** 昨年度には、DDIポケットの事業譲渡とツーカー3社の完全子会社化を実現したほか、有利子負債削減も進み、合併後の課題であった事業の再構築と財務の健全化についてめどをつけることができました。上半期は、まさに「攻め」の姿勢に転じる初年度として「戦略とスピード」をキーワードにした事業戦略を展開してまいりました。

au事業においては、ご好評いただいているEZ「着うたフル®」に加え、新たなサービスとして、GPSを利用した「EZ助手席ナビ」などのコンテンツサービスや「ダブル定額ライト」などの料金プランをスタートしました。これらのサービス、料金プランと「EZ FeliCa」搭載の魅力的な端末などがお客様から評価をいただいたことで、順調にご契約数が増加し、上半期における純増数についてもトップの座を占めることができました。

一方、固定通信事業では、本年2月から「KDDIメタルプラス」をスタートし、これまでの家庭用に加え、本年6月から事業所用メタルプラス電話でのADSLサービスのご提供を開始したほか、サービスエリアを順次拡大してまいりました。上半期においては、KDDIメタルプラスそのものの浸透・拡販に注力しましたが、今年度中にはサービス体制を確立し、さらに、2007年度中の黒字化を目指しています。

3

## 今後の事業戦略

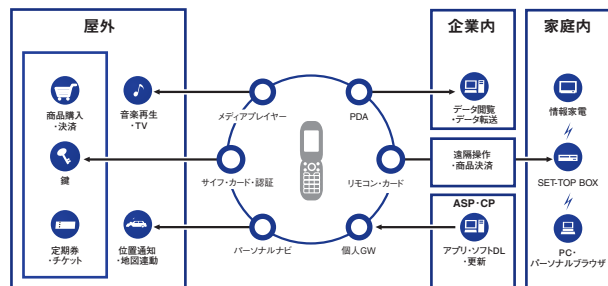
### 携帯電話のパーソナル・ゲートウェイ化

**Q** 今後の事業戦略についてお聞かせください。

**A** au事業については、これからの時代、携帯電話を通して、いつでもどこでも、さまざまな情報をやりとりするようになり、携帯電話が個人にとっての「パーソナル・ゲートウェイ」として位置づけられるようになります。当社は、携帯電話にこれまで以上にさまざまな機能を搭載し、通信ネットワークと接続することによって新たな価値を創出することを目指し、放送と通信の融合や新たな決済手段の提供など、お客様の生活に密着した機能をより充実・強化していきます。

たとえば「EZ・FM」「EZテレビ」においては、放送と通信をインタラクティブに融合させることで、単にFMを聴く、テレビを見るといった機能だけではなく、CDの購入やEZ「着うたフル®」のダウンロードができるといった新たな活用方法をご提案しております。

また、本年9月にスタートした「EZ FeliCa」は、携帯電話をリーダーにかざすだけで対応する交通機関・店舗で電子マネーとして利用できます。今後は、こうした携帯電話を新たな決済手段として活用する場の拡大が想定されております。



パーソナル・ゲートウェイのイメージ

## 次世代のインフラ「ウルトラ3G」とFMC

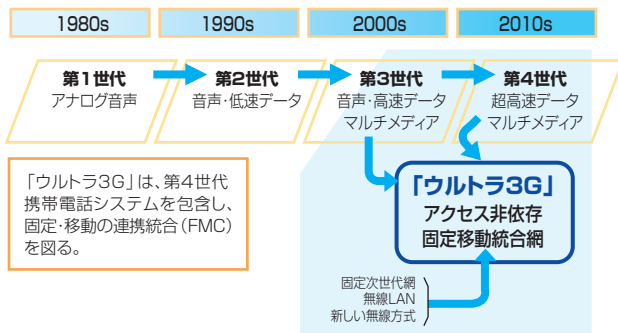
当社は、固定・モバイル両方の事業を持つ日本で唯一の総合通信事業者です。その強みを生かしFMC\*サービスを充実させ、他社に先駆けてより強固な事業基盤を築いていきます。

本年5月には、固定電話と携帯電話の請求書統合サービスである「KDDIまとめて請求」をスタートしましたが、今後はお客様が固定とモバイルの別を意識することなく同じようにご利用いただけるFMCサービスの開発など、お客様にとってリーズナブルで使いやすい仕組みを整えていきます。

FMCサービスを展開する上での基盤となる次世代通信インフラがウルトラ3G構想です。これは、現行の3G携帯電話、無線LANに加え新たな無線システムやADSL、FTTHなどの固定通信も融合したシームレスで統合的なネットワークを構築するものです。当社では、ウルトラ3G構想を推進することで、ユビキタスネットワーク社会の実現に貢献していきます。

\*Fixed Mobile Convergence：固定とモバイルの融合

### ウルトラ3G構想



「ウルトラ3G」は、第4世代携帯電話システムを包含し、固定・移動の連携統合 (FMC) を図る。

## KDDIメタルプラスを主たる販売サービスに

固定通信事業については、「KDDIメタルプラス」を多くのお客様にお使いいただくことが最大の課題です。KDDIメタルプラスは、NTTの交換機を介さずにKDDI独自のIP網

を利用するため、低廉な料金でサービスをご提供できるほか、基本料金と通話料金の請求書が一本化され、さらには電話加入権が不要になるなどのメリットがあります。また、NTTへのアクセスチャージの支払いが不要になるため、事業収益への貢献も大きいと言えます。

下半期は、「KDDIメタルプラス」を重点サービスと位置づけ、まずはインフラの整備を確実に行ってまいります。

4

### 個人情報保護およびリスク管理体制

#### 通信の秘密をベースに企業としての責任を強化

**Q** 個人情報保護およびリスク管理体制に対する取り組みについて教えてください。

**A** 通信事業者には従来から「通信の秘密」という憲法上の大原則を守る義務が課せられており、個人情報の保護やリスク管理が声高に叫ばれる以前から、お客様情報漏えい防止を最優先課題として取り組んでまいりました。

当社では、KDDIグループ全体のリスク管理の推進とコンプライアンスおよびお客様情報管理のさらなる徹底を図るため、リスク管理本部および情報セキュリティ委員会を設置しております。ネットワークセキュリティ対策や関連規程類の整備、業務見直しなど、お客様情報を含む社内情報漏えい防止体制を強化し、通信の秘密、個人情報、会社としてのリスクを総合的にコントロールしております。今後は、体制の強化を図るとともに社内における教育や啓蒙活動にも取り組み、企業としての社会的責任=CSR\*を果たしていきたいと考えます。

\*Corporate Social Responsibility

5

### 企業の社会的責任と社会貢献活動

#### CSRを支えるTCSと事業基盤の強化

**Q** 企業の社会的責任と社会貢献活動への見解をお聞かせください。

**A** 企業が社会の中で生きていくためには社会に対する責



任をきちんと果たしていくことが大切です。ただし、CSRを実践していくためには、企業として存続できる財務体質を確立することが前提であり、これが社会的責任を果たす第一歩であると考えます。当社は、経営理念として「お客様第一主義」を掲げ、全てのステークホルダーの満足度を上げるTCS\*活動を推進しておりますが、TCSはCSRそのものであり、今後もこの活動を浸透させることで事業基盤を強化してまいります。あわせて、開発途上国の支援や環境問題への取り組みなど、グローバル企業としての社会的責任を果たすための活動に努めていきます。

\*Total Customer Satisfaction

6

### 株主の皆様へのメッセージ

#### 安定配当を継続することが責任

**Q** 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

**A** 株主の皆様への利益還元は配当を基本に考えております。株主の皆様から中長期的に当社を信頼していただくために、財務面の健全性を維持しつつ、安定配当を継続してまいります。

当社は、これからの通信業界の中でキラリと光る存在であり続けたいと考えており、お客様から本当に信頼される会社、お客様の満足度の一番高い会社を目指しています。株主の皆様におかれましては、そうした当社の理念、事業戦略についてご理解いただき、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。